

之れが後日方目の自由行動となり

- 一 警官は外人を擁護して日本人を見殺したとよいか
- 一 コラ中島が種々は仍此意の書<sup>書</sup>に依つて今日あつたや否しか
- 一 警官が何れに我々を以て内上<sup>内上</sup>に扱ふべき否<sup>否</sup> (馬例)

五 新感

群衆が警官平名の前へ於て革命歌を唱へし  
 警官及警察局長の横暴を友々怒罵しつゝ、堂付ヒラ  
 ち撒布した門前の光景は吾人をして佛世園西華  
 本に思はしめた

革命局長は威嚇を命じた、而して該局の中より  
 交渉者をも選定して中島共々即ち支配人と訪問

すのの事又たわりの多数の傍々外押しをせしめ  
 又私に周敷を命じしと云ひ切つた、群衆  
 中より中島く、大、声此れに起り遂に中島  
 の自白を白つて子威運<sup>威運</sup>動も細めた

警官署長の命を交し押入を制し群衆の先  
 頭員の傍に革命監獄の大通つたまゝと  
 したる止あんとせり、群衆は如何  
 にか支ふと遂に大通つた押入であり

群衆の先頭員が革命監獄の門前を去り約半五  
 周に達したる時遂に警官の数名は暗計し腹  
 合但合と大書せる大旗を奪取し旗争を政打し四  
 分の出立之を捨棄し去れり是より大松閣演説